

鉄筋コンクリート造建築物の鉄筋かぶり測定

～JASS 5 T-608: 電磁誘導法による非破壊検査～

日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事2009」の改訂により、せき板や支保工を取外した後にかぶり厚さ不足が懸念される場合に対して、非破壊検査測定方法、判定基準および対処方法が**規定化**されました。

お任せください！
計画書作成から報告書作成まで、**一貫したサービス**で現場作業のお手伝いをいたします。

■電磁誘導法による鉄筋かぶり厚さ測定

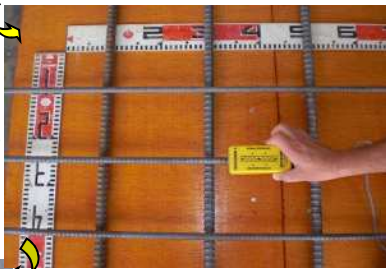


●使用機種

JASS 5 T-608に規定されている装置本体性能を保有している、鉄測EM-01A(株計測技術サービス)にて計測いたします。

●補正值の設定

配筋図を基に模擬配筋を組立て、所定のかぶり厚さごとに補正值を設定します。



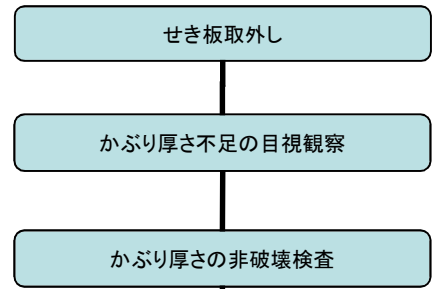
●現地計測

現地構造体各部材において鉄筋位置のマッピングを行った後、かぶり厚さ測定を行います。



●成果報告

測定かぶり厚さの補正、合否判定後、成果報告いたします。

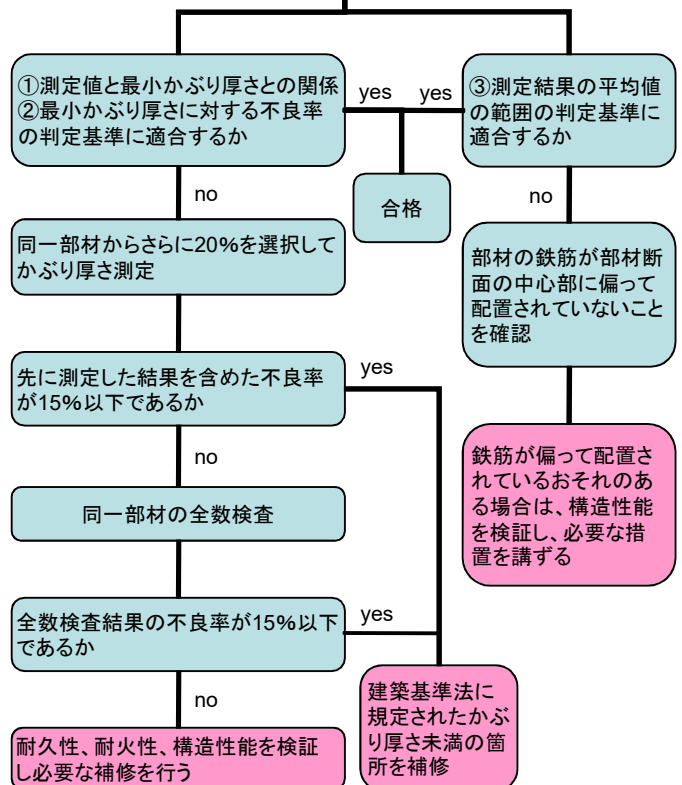


検査箇所の選定

同一打込み日、同一打込み工区の柱、梁、壁、床または屋根スラブから、かぶり厚さ不足が懸念される部材をそれぞれ10%選定し、測定可能な面についてそれぞれ10本以上の鉄筋かぶり厚さを測定

合否判定基準

- ①測定値と最小かぶり厚さとの関係 $\chi \geq C_{min} - 10mm$
 - ②最小かぶり厚さに対する不良率 $P(\chi < C_{min}) \leq 0.15$
 - ③測定結果の平均値の範囲 $C_{min} \leq \bar{X} \leq C_d + 20mm$
- χ : 個々の測定値(mm), \bar{X} : 測定値の平均(mm)
 C_{min} : 最小かぶり厚さ(mm), C_d : 設計かぶり厚さ(mm)
 $P(\chi < C_{min})$: 測定値が C_{min} を下回る確立



JASS 5 T-608 非破壊検査フロー